

[34]文學研究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/2556532>

出版情報：文學研究. 34, 1945-03-30. The Kyushu Literary Society
バージョン：
権利関係：



文學研究筆者別索引

(筆者はABC順による、括弧内は輯號を示す)

千代正一郎

獨逸的なもの (三三三)

春・日 政治

片假名交り文の起源に就いて (一)

古訓漫談 (二)

高野山にて觀たる古點本 (一四)

宇治拾遺物語の古點本 (一七)

金光明最勝王經註釋一本の古點について (二四)

聖語藏御本と掘燈羅經の字音點 (三三)

古訓語彙小攷 (三三三)

片山正雄

文學科學概説 (一)

小島吉雄

明治初期の歌論 (一)

宗祇の晩年 (三)

新古今和歌集の撰集態度と撰集事業 (五)

新古今和歌集の撰集態度と撰集事業 (五)

新古今和歌集の撰集態度と撰集事業 (五)

新古今和歌集の撰集態度と撰集事業 (五)

新古今和歌集の撰集態度と撰集事業 (五)

新古今和歌集の撰集態度と撰集事業 (五)

小牧健夫

ヘルデルリンのエトナ劇斷片 (二)

クライストの『公子ホムブルク』の問題 (六、八)

銀の鈴 (一一)

ゲーテの從軍記 (一五)

ヘルデルリンの牛神觀 (二二、二四、二六)

榮花行 (二二)

クライスト隨想 (二八)

獨逸浪漫主義の諸問題 (三〇、三三)

正岡子規とレツシング (三三)

小室光弘

土と文藝 (三三)

松枝茂夫

鏡花緣の話——異國廻りを中心として—— (二六)

葉菴居士張岱 (二八)

醒世姻緣傳の一家 (三〇)

郝蘭泉の隨筆 (三三)

謝恩 (三三)

森永 隆

目賀田 誠

填詞選釋 (一一)

民國以來中國新文學 (一四)

白樂天の諷諭詩 (二〇)

邵經天の附東菴考 (二五)

陳碩甫傳 (二九)

春秋の斷章賦詩について (三一)

永田 秀一

ヴィーの哲學詩について (三三)

中山竹二郎

『貧者の友』ウキリアム・ラングラント (一一)

イギリス中世の宗教劇(五) イギリス古劇の詩形について(九) チヨウサアと現代英語(一一三) 散文韻律について(一九) チヨウサアの於ける措辭的特徴について(一一三) ウエイレの英譯『源氏物語』(一一三) チヨウサア その生涯と性格(二七) キヤンタベリ巡禮の世界(三〇) チヨウサアの二面性(三三)	成瀬正一 十八世紀に於ける文藝サロン(二、三) 新舊兩派の文藝論争(七) モンテニユと東洋の悟道(一六) 旅行報告書(一六)	野上豊一郎 杉田玄白とその周囲の人達(一九)	小野島行忍 ザツカ・パンハ・スツタンタ リツ・サンハハラ(一〇、一一、一二) 梵詩メーガ・ヅーダ散文譯(二八、二九、三一) 草枕をいふこと(三三)	笹月清美 天平八年の遣新羅使一行の歌(一三) 古事記の文藝的性質に關する認識の發展(一七) 文藝活動の機構(二一) 本居宣長における道と文藝(二三) 語意考の成立過程を示す二三の傳本について(二六) 本居宣長の國語研究(二九) 小林歌城のデニヲハ説(三一) 富士谷御杖の言語理論について(三三)
佐藤通次 世界の劇性とゲーテの『ファウスト』(一) 雅歌(四) 生の悲極性(八、九) 數・性・格と『考へる』(一〇、一六、一七) 『老』と『親』とについて(二二) 創世神話とわが民族の原體験(二四) 『生む』の論理的構造(二五) 『超人』の二契機——『見る』と『生む』と——(二九) 表現の志氣機——『ファウスト』研究に寄せて——(三三) 歴史と形態變化——『ファウスト』研究の一齣——(三三)	進藤誠一 『ファイガロの結婚』とボーマルシェー(一) ユーリエーヌ・ラビツシの喜劇(六) スクリーブの功罪(八、九、一一) コメディー・フランセーズの沿革(一四、一五、二五) 十九世紀中葉以後に於ける佛蘭西風俗劇(一八、二五) 日本に於けるコメディー・フランセーズ(二七) モリエールの結婚(二七) マリヴオール覺書(二九) フランスにおけるイタリヤ人劇團の業績(三三) 『ブリタニクエス』から『五大力』へ(三三)	吉野の鮎 高木市之助 國見芳(二七) 牡丹芳(三三)	田中 晃 表現の構造(一六) 萬葉歌人の國家思想(一八) 日本文學の國家思想(二〇) 日本の現實主義と『ものゝあはれ』(二三) 生成の根據としての自然(二五)	

豊田 實

日本に於けるシェイクスピア紹介の歴史 (一)

英吉利漂流邦譯考 (四)

芥川龍之介とエドガ・アラン・ポオ (七)

基坪内博士の歴史 (一二)

日本とシェイクスピア (一六)

俳句と英語の反映としての英語史緒言の一節 (二六)

生活、英語起原の問題——英語史「第一部概観」の緒論—— (二九)

英語を通過して見る英人祖先の生活——大陸時代—— (三一)

山内 晋 卿

六朝時代の展望 (二)

牟子問題の清算 (四、五、六)

王鳴盛氏の佛典觀 (一二)

矢田部 達郎

古語に於ける「てには」の意義 (三三)

吉町 義 雄

『物類稱呼』西國方言索引 (一)

九州方言の特異性 (二、三、五)

島津齊彬の『ローマ日記』と長田穂積の『菊池俗言考』 (七)

博多仁和加用語に現れた活用一段化趨勢 (一〇)

日本語動詞現在形活用論 (一五、一七、一九、二二、二四、二六)

九州方言四段・變格活用動詞分布相 (三三)

紫雲鹿兒島方言文學四書抄 (二八)

施福多「日本文庫及日本文學研究提要」 (三〇、三三)

奥都創刊日本語辭書 (三三)